

# やわた名所百選

## 八幡公民館周辺歴史マップ

### 上総国府ロマンの里と八幡さまの杜



歴史の町の文化の殿堂「八幡公民館」の周辺には歴史文化がいっぱいです。本書を片手にぶらり、意外と知らない地元の名所を歩いてみませんか。

「市原」の語源は「いちいの木」です。千古の昔、いちい生い茂る自然豊かな台地が目につかびます。八幡公民館エリアは昭和30、31年八幡町と菊間村、市原村の大部分が合併して誕生した市原町に由来し、昭和38年市原市になりました。

菊間は菊麻国造(くくまのくにのみやつこ)一族古墳の宝庫で、明治維新のひと時沼津から転封した水野忠敬が5万石城下を構えました。市原は菅原孝標のむすめが暮らした「国府ロマンの里」で、八幡は飯香岡八幡宮の門前町として発展、江戸から明治時代は水陸交通の要衝として、昭和時代は潮干狩りやのり養殖場として繁栄、昭和30年代の海岸埋め立てで工業都市へと変身しました。それぞれの歴史文化を育んで今日に及んでいます。

八幡公民館エリアは歴史の町です。先人たちが残した豊かな歴史文化を一人でも多くの方々に知ってほしい。そんな願いをこめました。ぜひ現地へ足を運んでください。

お願い 個人宅や寺社建物内は原則非公開です。ご迷惑がからないようにご注意ください。

八幡史学館チーム

## やわた名所百選

### 飯香岡八幡宮境内

第1番 飯香岡八幡宮社殿\* (本殿 国重要文化財、拜殿 県指定文化財)

八幡の地名となった鎮守の神。白鳳時代(7世紀後半)「二国一社の八幡宮」、また天平時代(730ころ)「国府八幡宮」として創建されたともいう。はじめ国府近くで誕生、現地への移転時期は室町中期といわれる。拜殿は元禄4年建造、入母屋

造り銅板葺き、本殿は正面3間、側面2間に向拝と廻縁を巡らせ、力強く簡素、室町中期の特色を示している。祭神は菅田別尊(ほんだわけのみこと)で、中世は関東の清和源氏武將が帰依し、江戸時代は家康以下の徳川將軍家が150石の社領を寄せた。子孫繁栄、交通安全など靈験があらたか、毎年秋の例大祭は数千人の氏子や見物人で賑わう。また祭りに先だつて行われる「柳楯神事」は県の有形民族文化財に指定されている。

第2番 夫婦いちよう (県指定\*) と飯香岡地名歌碑

飯香岡八幡宮創建の記念神木で勅使桜町中納言手植えという。根元から二股に分かれて相對していることから安産子育てのシンボル「夫婦いちよう」として親しまれている。かたわらの勅使記念碑は「君がためきよう植えそえし銀杏樹(ちちのき)」にいく世経んとも神宿るらん」、日本武尊に由来する飯香岡地名碑は「御影山 神のためにし飯香岡 むかしをかけて 世に匂いけり」を刻んでいる。

第3番 逆さいちよう

当社神木。治承4年(1180)鎌倉をめぐす頼朝が飯香岡神社に立ち寄り、いちようの枝を逆さに植えて「もし活着することあれば源氏の勝利間違いなし」と戦勝を祈願したといわれている。

第4番 伝足利義満寄進みこしと家康銘大太刀\* (宝蔵庫 県、市指定)

徳川幕府創設期の重臣・本多正純が朝鮮の役に出陣する家康の武運長久を祈願した大太刀、室町中期製みこし、五大力船大絵馬、当世具足などを収蔵している。毎年3月15日に一般公開される。

第5番 放生池\* と清見の滝

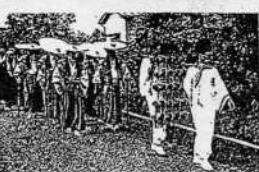
放生は八幡宮の創設神事で、殺生をやめ作善のため生物を放つこと。秋の例大祭

**飯香岡八幡宮本殿**  
MAP P49-A4 八幡1657-1  
TEL 0436-23-9953 (07:00-22:00)



**市原の柳楯神事**  
MAP P49-A4 八幡1657-1  
TEL 0436-23-9953 (07:00-22:00)

市原の台地上から二日かかりで運ばれる柳の楯  
飯香岡八幡宮の秋季大祭にまつわる神事です。楯は神降臨のための霊木で、八幡神は武神であるため、柳で作った楯であるとの説もあります。楯は市原地区の司家が1年交代で調整しており、楯の小枝25本と青竹5本を使って毎年新調します。市原を出た楯は二日かかって飯香岡八幡宮へと到着し、そこから大祭が始まります。大祭では神輿を

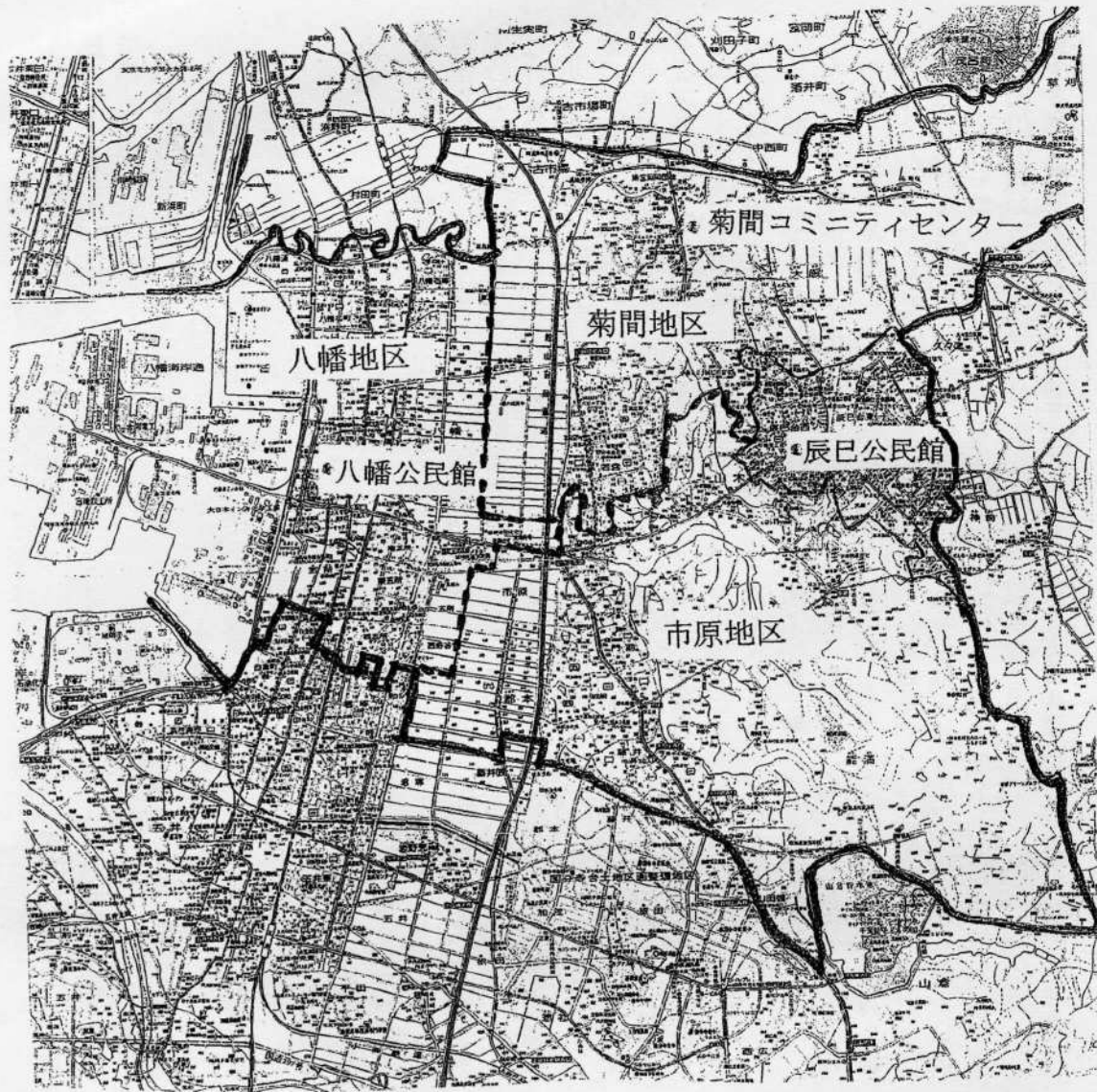


先導して町内を巡回し、その後本殿内に安置されます。翌年正月14日のトンドン焼きの際に焼かれます。

**漆塗金銅装神輿**  
MAP P49-A4 八幡1657-1  
TEL 0436-23-9953 (07:00-22:00)

「至徳」銘の神輿が魅せる 伝統工芸技術の粋  
飯香岡八幡宮には、中世・近世・現代の3代にわたり、一の宮、二の宮、三の宮、若宮の12基の神輿があります。このうち、中世の神輿は、熊り起りのある室形造の屋根や基台周辺の彫刻を数玉型にするなど、室町時代の建築・工芸様式を示しています。





んだ。散策の地八幡宮境内は「初恋の森」、碑は「ある日、初夏の爽やかな日だった」で始まる半白叙伝「流れ」の一節を記す。  
 (お断り)飯香岡八幡宮は令和元年9月の台風15号で夫婦いちょうなどに大きな被害ができました。本書写真は被害前のものを使用しています)

## 八幡

### 第12番 村田川\* (村田川公園)

村田川は上総、下総国境の境川で、房総往還の上総玄関口にあたる。江戸時代架橋は許されず旅人たちは渡し船、干潮時は徒歩で渡った。千葉市の史跡看板は「この地は南房総への交通の要所でした。明治20年ころまで船による渡しがあり、古来探房の文人、墨客、兵馬など身分の上下を問わず船で川を越しました。かたわらの庚申塔は享保13年、八幡村の人24人の名前を刻んでいる。川向こう向かって左手は菅原孝標のむすめ「更級日記」の「いかだ」候補地の一つ。「下総の国のいかだ」という所にとまりぬ、庵なども浮きぬばかりに雨ふりなどすればおそおそろしくていもねられず」。また千葉康胤の「村田川の戦い古戦場」とされる。

### 第13番 胴埋 (どうまん) 塚\* (北町)

千葉康胤と一族戦死者の塚跡で共同墓地になっている。天明2年の御題目塔や三山講碑、延命地藏像などがある。碑は「千葉氏の宗家争いに馬加城主千葉康胤は(中略)敗走し、村田川の畔にて自刃し、首は持ち去られその胴は雁田川の畔に埋めた」との伝承を記す。

### 第14番 石塚と庚申塚跡 (石塚公園)

もとは「石握の里」で八幡の旧地ともいう碑は「往古この付近に村落が形成され石塚村と称したこと、庚申神社が鎮座し、悪疫除災、旅中守護の神として信仰されたことを記している。

### 第15番 観音町入り口の東金道道標 (観音町地先)

かつての八幡村の入り口に馬頭観音などが並ぶ。安永10年の庚申塔は道標を兼ね「右東金道、左江戸道」を記す。茂原を経て東金に通じた間道で、JR内房線までの300mほど古道が現存する。

### 第16番 稱念寺と中世五輪塔群

天正3年浄土宗の千葉大蔵寺念仏寺として創建、五大力船舟歌に「赤い夕焼け上総の空に鐘が聞こえる稱念寺」と歌われた。50基ほど並ぶ中世小型五輪塔は古い町の歴史を物語る。明暦元年聖観音、2年地藏像などがある。

### 第17番 浜本町 (はもと) の町並み

で海に放生した神事を継承している。

### 第6番 江戸中期石灯ろう2基

八幡宿地区最古の石灯ろう。右は承応4年、生国和州、杉井甚七郎内徳兵衛、左は元禄4年、杉井三左衛門常政を刻む。江戸中期八幡の商人が寄進。

### 第7番 手水鉢と水屋

手水鉢は寛文2年建立で市内最古。水ごりに使った古い形式が残る。八幡住13名、名主や有力者銘が連なり、水屋天井に慶応2年の棟札が下がる。

### 第8番 菅野儀作像

明治40年、昭和56年。戦後混乱期の郷土復興や海岸埋め立てによる工場誘致などに貢献した八幡地区発展の功労者。民選初代町長、県議、参議院議員を勤めた。

### 第9番 川上南洞像

文久元年、昭和9年。私財を投げうって南総学校を創設、多くの人材を送り出した。地域教育の父。

### 第10番 八幡五所漁業協同組合解散碑

県が提唱した八幡海岸埋め立てに同意したことを記す地元漁協の記念碑。「父祖伝来の漁業権を放棄、組合もまた(中略)伝統と歴史を閉じ昭和34年7月31日をもって解散することになった」。

### 第11番 直本賞作家・立野信之文学碑

立野は平田生まれで八幡の南総学校に学

江戸時代から大正ごろの八幡河岸地、元は五大力船の船持ちや船乗り、船大工、はしけ作業の人、米穀、薪炭、材木商店などが軒を並べた。町並みは湊町として賑わった江戸や明治、大正時代を偲ばせる。

### 第18番 明治の料亭と海の家・魚惣

明治27年創業の磯料理料亭、建物は当時の現存、潮干狩りや海水浴の「海の家」、すだて、遊覧船などがかつて「海の町」の中心的な役割をはたした。

### 第19番 みお筋 (八幡運河)

江戸始めに開いた人工運河。潮の香りやつり船が港町時代の雰囲気伝える。

### 第20番 船だまり跡 (ベイシア周辺)

江戸時代の五大力船船だまり港。内陸部や外房方面から運ばれた年貢米や特産物の炭薪、木竹材を江戸へ運び、帰り船で衣料や酒、日用雑貨などを持ち帰った。

### 第21番 浜本町港堅みおと横みお跡

江戸、東京との海運拠点、昭和戦前戦後期はのり養殖や貝取り漁港として賑わい、戦後の海岸埋め立てで消滅した。

### 第22番 水神様と力石

古来、船乗りたちが崇拝した水神さま。力石は力くらべの名残。

### 第23番 房総往還、宿 (しゅく) 通り

旧往還八幡宿の中心街。武道館前が高札場で、継ぎ立ての伝馬所、旅籠や木賃宿な



国境の川跡・村田川公園



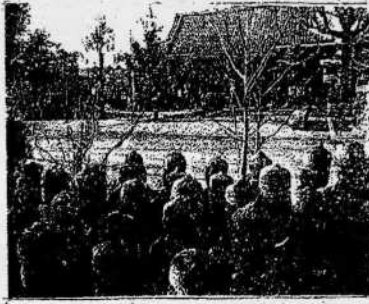
創設神事が行なわれる放生池



八幡宮の夫婦いちょう



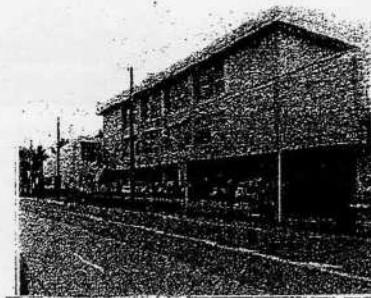
五大力船の母港・八幡港跡



称念寺にある中世五輪塔群



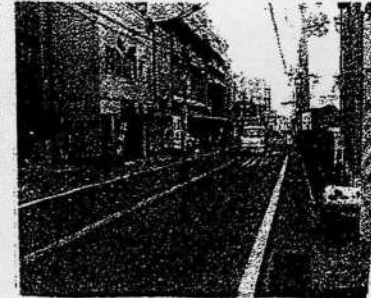
千葉康胤の胸を埋めた胸塚



地域文化の殿堂・八幡公民館



霊応寺跡の八幡宿駅前



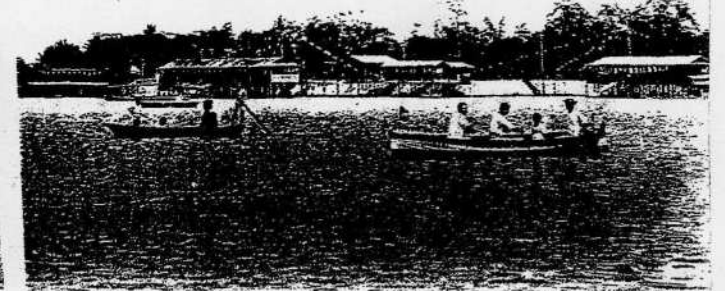
大名行列も通った宿通り



昭和30年代の八幡海岸は海水浴や潮干狩りで賑わった



東京の学童たちの潮干狩り



満潮時の八幡海岸、後方は海の家と八幡様の森

にあつた真言宗の寺。菊間若宮神社別当寺を兼ねて若宮寺を称した。飯香岡八幡宮領のうち18石を配当したが、明治維新の「廃仏毀釈」で破壊された。

**第28番 八幡小学校旧地、八幡町役場跡**  
 霊応寺跡地は明治7年、八幡円頓寺で開校、称念寺をへた八幡小学校となった。以後、明治、大正、昭和期と、八幡のこどもたちの「学び舎」として親しまれたが、昭和42年老朽化と児童数の増加で現在地に移転した。明治23年、八幡小学校敷地内に八幡町役場を併設、のち八幡宮境内地に移転、市原町役場、市原支所となった。

**第29番 JR八幡宿駅**  
 明治45年国鉄木更津線八幡宿駅として開業、駅名は当時の大字名によつた。昭和40年代まで両国始発の蒸気機関車が煙をなびかせた。同43年複線化、平成7年モダンな階上駅舎になった。

**第30番 八幡公民館**  
 昭和23年八幡宮境内に「新生八幡町」シンボルとして町民の勤労奉仕で創立、木造2階建てで収容人数2千人を称した。翌24年「全国優良公民館」として文部大臣賞受賞、昭和47年西口整備工事のため現在地に移転、平成30年2度目の文科大臣賞。郷土の著名日本画家・山口達画伯の「大天井絵「四季草花図」」やわたむか

どが並んだ。宿通りを参勤交代の大名行列が進み、旅人たちが江戸をめざした。本陣は年番名主の持ち回りで、八幡組合村15か村寄せ場大総代を兼ねた。

**第24番 伝江戸中期の大名陣屋跡**  
 元禄ころの堀八幡藩1万石陣屋、また大久保1万石陣屋説もある。旗本永井氏名主を勤めた鈴木家が「陣屋」名乗りを許された文化6年の拝領絵図を所蔵する。明治から戦中期醤油醸造所を生業とし、昭和に八幡町長と初代市原市長を出した。

**第25番 満徳寺**  
 創建不詳で室町中期足利義明ゆかり寺を伝承する。江戸時代は八幡宮別当寺の霊応寺塔中首座で社領配当6石。真言宗。境内に寛文6年不動明王像、79番番札所碑、一石六地藏がある。

**第26番 伝八幡公方足利義明夫妻の墓**  
 (満徳寺御墓堂)  
 義明は古河公方の2男だが兄高基と対立上総に転じて八幡公方(将軍)、小弓公方を称した。小弓城を本拠に房総3か国をほぼ征したが、関東の覇権を懸けた国府台の戦いで後北条氏に敗死した。伝夫妻五輪塔は圧巻。

**第27番 八幡官別当寺霊応寺跡**(JR線八幡宿駅前周辺)  
 江戸時代現在の駅と駅前ロータリー一帯

# やわた地区歴史マップ

工場プラント

① 海\*浴, 朝F特ト

③ 八幡宮公園

⑤ 八幡宮跡

⑦ 水神様

⑨ 桐塚

⑪ 八幡宮

⑬ 称念寺

⑮ 市川本店

⑰ 宿通り

⑲ 道標

⑳ 伝明の墓

㉑ 八幡宮跡

㉓ 陣屋

㉕ 山端徳寺

㉗ 八幡宿駅

㉙ 大村家

㉛ 妙長寺

㉝ 月と寺

㉟ 市原出金

㊱ 市川神社と庚申塔

㊲ 後田神社

㊳ 五徳寺

㊴ 五徳寺

㊵ 五徳寺

㊶ 五徳寺

㊷ 五徳寺

㊸ 五徳寺

㊹ 五徳寺

㊺ 五徳寺

㊻ 五徳寺

㊼ 五徳寺

㊽ 五徳寺

㊾ 五徳寺

㊿ 五徳寺

五大力船

塩場跡

村田川

菅原左様

昔の川

今も流れる

上総

下総

国境

千束

新村田橋

旧菊内城大手道

右東金へ

左江戸道

菊内へ

村田川の渡し

JRのレガ鉄橋

昭和30年代まで蒸気機関車が...

し写真館」などを展示している。

### 第31番 八幡海岸跡(運動公園地先)

八幡運動公園のコンクリート岸壁先はかつて遠浅の干潟地で、満潮時に波が押し寄せ、干潮時は4kmもの砂浜になった。東京最寄りの潮干狩り、海水浴場、すだて場として観光バスを連ねた学童たちで賑わった。岸壁にせり出して着替えや食事を提供する「海の家」が立ち並び、公園の八幡中学校校庭は臨時のバス駐車場となった。八幡海岸の冬は「のり養殖場」でのり干し場が空地を埋め尽くした。

### 第32番 南町みお跡(児童公園周辺)

慶長時代、八幡村を所領した本多正信、正純父子らの年貢米津出し港として開掘。市原支所、保育園が蔵地であった。昭和期はのり採り舟が並んだ。

### 第33番 醤油製造商家

市川本店は旧八幡宮社家で八幡屈指の旧家。江戸後期から終戦後までの醤油製造業で、門や帳場、母屋、庭、蔵などが当時の商家造りを伝えている。

### 第34番 無量寺

浄土宗、大蔵寺末。白鳳元年創建という。本尊は八幡海岸に出現した阿弥陀如来像という。千葉氏のゆかり寺で、伝千葉康胤一族の供養塔がある。8月の「おえんま様」はえんま十王像や地獄変相図などを公開

する。

### 第35番 円頓寺

日蓮宗の浜野本行寺末。伝文明5年創建。本行寺開基日泰聖人の隠居寺で入寂地。境内に元文6年日什聖師碑などがある。

### 第36番 妙長寺

同じ日蓮宗だが池上本門寺末。正長2年日行聖人開山と八幡では一番古い寺。本堂前の日蓮聖人像は日行作と伝わる。

### 第37番 南総中学校跡(教育センター)

明治31年川上南洞が興した私立中等学校。戦時下の昭和19年廃校となるが、戦後県立市原第1高校八幡校舎(京葉高校の前身)として復活、39年まで続いた。

### 第38番 市原出途と元米穀問屋住宅

房総往還と大多喜道の三叉路。米穀薪炭など特産物を江戸東京へ運ぶ問屋商店が立ち並んだ。古い店造りや蔵などの商家建築が現存する。

### 第39番 猿田彦神社と庚申塔(市原埠頭入り口)

猿田彦は国つ神の一つで八幡宮とも係わる。傍らの碑が神社の由来を記し、庚申塔は元禄6年、青面金剛像を刻んでいる。

## 五所

### 第40番 金杉浜塩田跡と土堤残欠(埋め

立て工場地帯、西松屋裏)

江戸中期の天明4年、江戸金杉の人・庄左衛門が五所村と八幡村海岸の干潟地26万坪に金杉浜塩田を開設、およそ半分は4年後の台風で壊滅したが、残りの塩湯は明治維新後に及んだ。現在、埋め立て地一帯で江戸時代の塩田土堤と迂回水路100mが西松屋裏に現存する。

### 第41番 北川、金杉川みお跡

江戸時代からの小川。大正時代、昭和前期はのり採り舟の拠点であった。

### 第42番 伝飯香岡八幡宮元八幡(若宮八幡宮)

飯香岡社の創設神話にある「海中から神像を掬い上げた」元宮とする。由来碑は「神名帳考証」の一節を引く。

### 第43番 明照院跡と五所小学校創立の地(JR線路沿い満蔵寺裏)

真言宗、釈蔵院末。創建不詳という。江戸後期に寺小屋を開設、明治6年学制発布にともない本堂で五所小学校を開校し22年まで続いた。大正10年火災焼失、密蔵寺とともに満蔵寺に合併された。

### 第44番 満蔵寺

新義真言宗、釈蔵院、長谷寺末。創建は不詳で江戸中期とみられる。境内に「市原新霊場」二十番札所巡拝塔、子安観音堂、大師堂などがある。

### 第45番 出羽三山信仰と方形3段供養塔(五所共同墓地)

五所は三山信仰が盛んで元禄時代に始まり現在に続いている。三段塚に宝暦2年、嘉永7年などの碑が並ぶ。墓地に金杉浜塩田を開いた庄左衛門の墓がある。

### 第46番 伝八幡御所跡、白旗神社碑(ジヨイフル本田周辺)

戦国期、八幡・小弓御所足利義明の居城跡伝承地。白旗神社の碑文は義明の御座所で小弓城を攻略したとする八幡御所伝承を刻む。江戸時代の明細帳は義明古城除地を記載している。

### 第47番 金杉川の庚申塔

庚申信仰の名残。元禄8年の建造で、青面金剛像と3猿、鶏、2童子を刻む。

### 第48番 国分寺道標(田中踏み切りそば)

「この方、こくぶんじへ十八丁、かさもり四り」を刻む。年代の記載はない。

### 第49番 古代官道跡と四反田遺跡(五所小学校)

発掘調査で古代道と農耕具などが出土した。律令体制により計画的に整備された官道で「更級日記」の作者菅原孝標のむすめは京へ、源頼朝も鎌倉をめざした。

### 第50番 柳橋神事の道(五所小学校後ろのたんぼ道)

飯香岡八幡宮秋期大祭の神事で、市原か

ら柳橋を運ぶ古代道、五所小学校前で引き継ぎ、かつては五所御三家、現在は町民館に一泊して翌朝八幡宮に向かう。いままも柳橋が到着しない限りみこし渡御が開始できない決まりが守られている。

## 山木

### 第51番 山木坂と旧道(辰巳通り)

元は山木までをいったがいまは辰巳までの坂全体を指す。八幡と潤井戸を結ぶ間道で、妙永寺から火の見下、山木坂上の坂が昔ながらの風情を伝えている。

### 第52番 常徳院と木造聖観音菩薩像\*(市指定文化財 非公開)

秘仏の聖観音菩薩は鎌倉後期、建長寺伝来とされる。

### 第53番 妙永寺\*

山本坂旧道横高台に立地、安和2年創建と伝わる日蓮宗の古刹で元は八幡妙長寺末、若宮団地造営の時地域の道祖神などを境内に移設している。

### 第54番 白幡神社と山木分校跡

創建不詳で祭神を菅田別命とする。戦後の一時期八幡小の分校が置かれた。

### 第55番 白船城跡(山木入り口)

戦国期市原城の外郭。正面を切岸し、周囲を低湿地で囲む。細長い尾根を4つの郭

に堀切りした連郭式で、堀切、土橋、土塁、腰曲輪が確認できる。発掘調査で本城千葉小弓系のカワラケが出土した。

## 菊間地区

### 第56番 高呂塚巨人伝説(若宮)

全国にある巨人伝説の一つ。富士山に腰を掛けて東京湾の貝を食べていた巨人デッポポが立ち上がった時、こぼした砂でできた塚という。実は未発掘の前方後円墳で、桜季節に賑わう。

### 第57番 菊間八幡宮\*(木造隨身立像市指定、非公開)

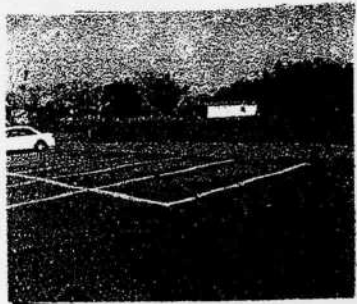
社伝は白鳳2年創建、源頼朝の祈願により千葉常胤勧請とし、元は若宮神社と呼ばれた。江戸時代は家康以下徳川歴代將軍から朱印地20石を拝領、現在の本殿は延享5年、拜殿は天保4年建造だが、社殿様式は権現造りの古式を留めている。本殿内に平安時代作とされる隨身立像2体が現存、また境内に大いちょう、寛文8年石手水鉢、道祖神、三山碑がある。

### 第58番 菊間天神山古墳\*

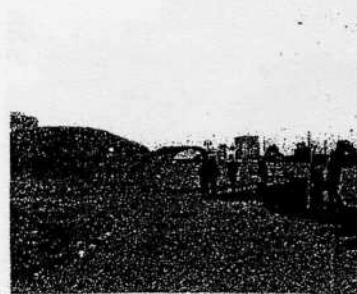
菊間台地に十数基を数える「菊間古墳群」の一つ。5、6世紀、大和朝廷政権下の豪族、菊麻国造(くくまのくにのみやつこ)首長の墓といひ、台地一帯が古代八幡地



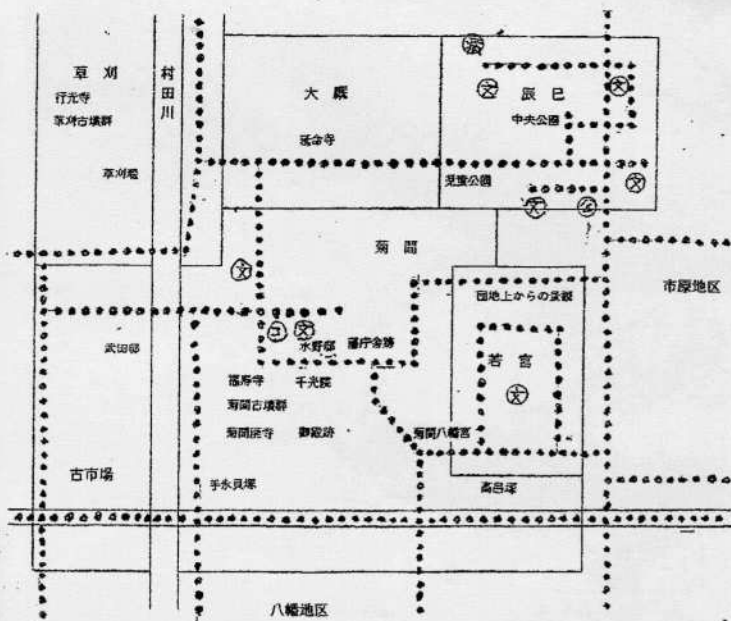
菊麻国造一族の菊間古墳群



水野5万石菊間城藩庁舎跡



草刈古墳群のある弥生公園



菊間地区の歴史マップ図



七里法華を拒んだ千光院



平安時代の隨身像がある  
菊間八幡宮

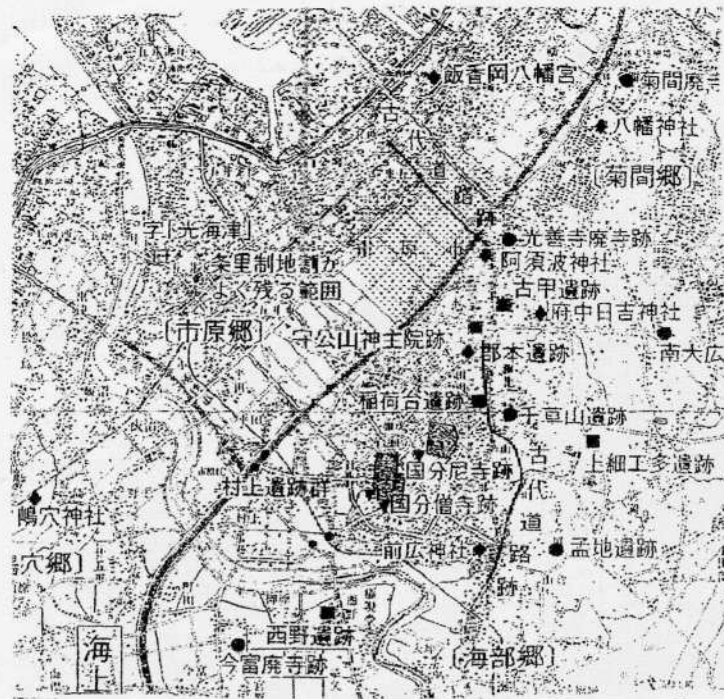
する新坂を開いて菊間出途に繋いだ。「新坂」が開発の由来を記す。

**第64番 松翁稲荷社跡**  
慶応4年江戸開城の時、警備にあたった水野家が城中の稲荷社を藩邸に引き取り、明治2年改めて菊間に遷宮したという。昭和5年老朽化のため若宮八幡宮に合祀、碑文は忠敬の嫡男・忠亮が書いた。

**第65番 菊間城藩庁舎跡**  
明治元年菊間へ転封した水野5万石藩庁舎跡。字雲の境一帯に後の村役場2階建て医局、時の鐘を取り付けた層塔、仮藩庁公がいなどを建築したが、本庁舎は土地を造成し土台を回した段階で中止、資材は初代千葉県庁に転用された。土塁や空堀などが痕跡を伝えている。

**第66番 知事水野忠敬住居跡**  
明治4年建造の水野忠敬住居跡。古写真は質素な構えを伝える。忠敬は5か月後に藩知事の職を解かれて東京へ招集されたが、跡地は水野家が別荘とした。戦前はテニスを楽しみ、戦時の一時期、家族が疎開されたこともあった。

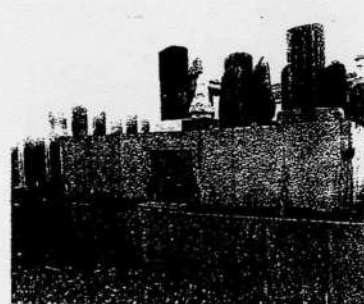
**第67番 水野忠寛御殿と武家屋敷跡**  
明治2年藩主忠寛に変わって築城を指揮した先々代忠寛の隠居御殿跡。忠寛は13代將軍家定の側用人で井伊直弼の側近。いまでも「御殿」と呼んでいる。土塁、空



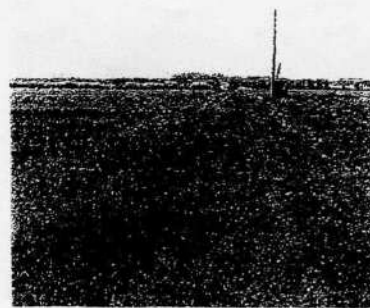
八幡公民館周辺の関連遺跡



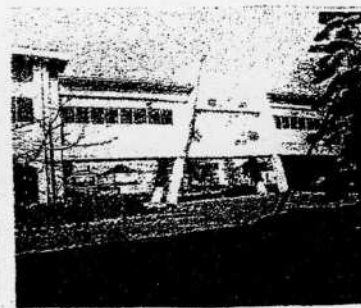
主要産業だった塩田跡



三山信仰の3段供養塚



600年の伝統を伝える  
柳楯神事の道



古代官道が通過する  
五所小学校



足利義明ゆかりの伝八幡御所跡

方の中心地として繁栄していたことがわかる。天神山古墳は台地西北端に立地、現況は円墳で直径39m、高さ3.5mを計る。周溝部の発掘調査で円筒埴輪片などを出土している。

**第59番 姫宮古墳\***  
台地東端部にある前方後円墳。全長51m、高さ3.9m。村田川を見下ろす高台にあり、大正3年の近衛師団演習で皇太子だった昭和天皇が見学された。

**第60番 北野天神山(権現山)古墳\***  
古墳上の天神社に由来。前方部が削平され後円部が現存している。

**第61番 東関山古墳\***  
墳丘70mと菊間古墳群最大規模を計る。幅2mの周溝が確認されたが内部は未発掘。このほかすでに消滅した新皇塚古墳からは市指定文化財の「将門塔」を出土し、現在国分寺に移築されている。

**第62番 菊間廃寺跡**  
飛鳥時代の古代寺院跡。菊麻国造の流れをくむ一族の寺とされるが未詳。未発掘だが一帯に古代の軒先瓦や布目瓦の破片が散乱している。

**第63番 菊間城新坂\*と菊間出途**  
明治元年沼津から転封した水野忠敬が築いた新道。当初大手道は旧往還の北新田側であったが、不便なため八幡宿と直結

堀の一部が現存、周辺藩士邸を含めた一角は、升型、五の字道など武家屋敷街特有の地形を伝えている。

### 第68番II藩校明親館と菊間小学校

明親館は藩士子弟の藩校で、沼津時代の文久年間14代忠誠が創建、転封のためいったん江戸浜町藩邸に移した後、明治3年に再移転、現在バスターミナル周辺に校舎、隣接する大厩の台地上に馬場などを築いた。明治維新後の同7年千光院で開校した菊間小学校が移り、25年菊間ミニティセンターをへて、昭和52年現在地に新築、再移転した。校内に県営団地造成時の発掘史料とむかしの民具を展示する「郷土資料室」がある。

### 第69番II菊間ミニティセンター

昭和40年代、菊間地区に造成された菊間団地と若宮団地入居者と地域住民とのコミュニケーションの場として平成4年創立、福祉センターが併設されている。

### 第70番II千光院

鎌倉末期市内犬成(喜多ともいう)で創建長享2年土気城主酒井定隆の「七里法華」を拒んで現在地に移転したとされる。新義真言宗。明治維新、水野忠敬初めての国入りで一時宿舍とし、菊間小学校の発祥地になった。山門前に四国八十八か所巡拝塔が並ぶ。千光院は88番で讃岐大窪

寺移し、合併した東漸院の74番、観音寺の71番、月光院の72番、ほかに庚申塔や宝きよう印塔などがある。

### 第71番II村田川荷揚げ場(菊間)

旧城沼津の家屋敷古材や家財を運びあげのための荷揚げ場と城中央部にかけての大空堀を構築、巨大スロープが城跡を横切っている。

### 第72番II手永貝塚跡(終末処理場)

縄文後期から晩期前半までの遺跡。多くの貝とともに人骨82体、オオハクチョウ、猪も埋葬されていた。

### 第73番II北斗池跡

元和元年灌漑用水ため池として構築、菊間藩の縄張り「四神相応」の地形にあてた。弁財天碑は池の中島旧碑の再建。

### 第74番II福寿寺と戒誓院

元八幡満徳寺末寺で寺伝は南北朝時代創建とする。真言宗豊山派。万治3年の地藏像は丸彫りの立像、「菊間のお地藏さん」の愛称で親しまれている。大型の宝きよう印塔や四国遍路87番札所碑がある。戒誓院も元満徳寺末寺、上総の四国霊場

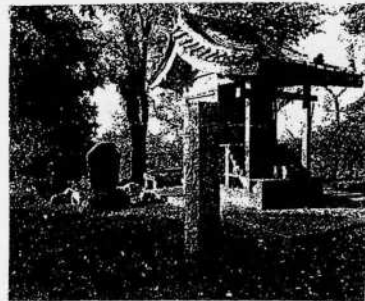
巡り78番札所の讃岐道場寺移しがある。

### 第75番II若宮団地上からの景観

菊間と山木を結ぶ旧道高台。冬の早朝など臨海工場越しに望む富士山は絶景。近くの道祖神は悪霊を防いで旅の安全を祈



市原の里絵マップ 提供=市原里づくりの会



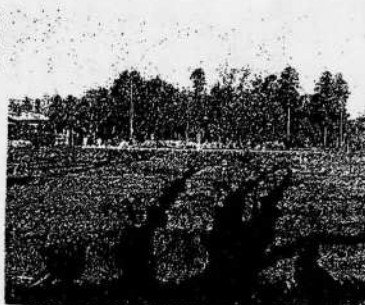
万葉ゆかりの阿須波神社



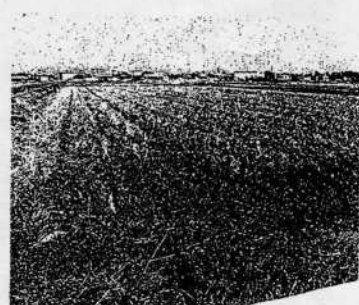
国府前寺と読める光善寺



埋蔵文化財センター



戦国時代の能満城跡



古代地割りの条里制遺跡

った。

### 第76番II草刈堰と中川溝

慶長年間村田の篠崎家と野呂の鶴田家が開削した灌漑用水路、また元和8年代官高室金兵衛ともいう。「中川溝」は大厩村、古市場村、菊間村をへて八幡村に至るおよそ6km、千葉側の「生実溝」をあわせ8百町歩1万石の水田を潤した。堰堤の水天宮と弁財天は水の神として信仰された。

### 第77番II武田邸(国登録文化財)

外観和洋折衷、大正昭和はじめの医院建築。右側は大正5年長南町に建てられた和館の解体移築、左側洋館は昭和3年の建造で昭和30年ころ結合された。38年まで使用、病室、診察室、手術室などが保存されているが非公開。

### 第78番II草刈古墳群と川焼不動

菊間古墳に隣接する古墳群で元は1000基ほど。一帯は弥生公園として整備、また隣接する川焼不動尊は瓦焼の転訛、瓦窯跡群跡で、この窯で焼かれた瓦が上総国分寺で使用された。

### 第79番II行光寺

日蓮宗。室町中期創建とされる古刹で、広い境内に日蓮像など石造物が多い。

### 第80番II古市場と伊南通り往還

古市場は千葉市の古市場と市街を形成し、地名は村田川の兩岸の古市に由来してい

る。治承2年千葉氏の臣・高島恒重が陣屋地に天神社を創築したとするが未詳。江戸時代は伊南通り往還、潤井戸、浜野の間宿(あいしゆく)で、大多喜藩の大名行列が通った。日蓮宗の長妙寺があり、東脇の窪地は村田川の川回し跡で元は松葉屋の船溜まりといった。

### 第81番II大厩の地名

地名は古代律令制の駅路II馬屋か馬牧に由来すると考えられるが未詳。また一説は大厩藤太郎館跡とする。地区に川上台古墳、駒形神社がある。

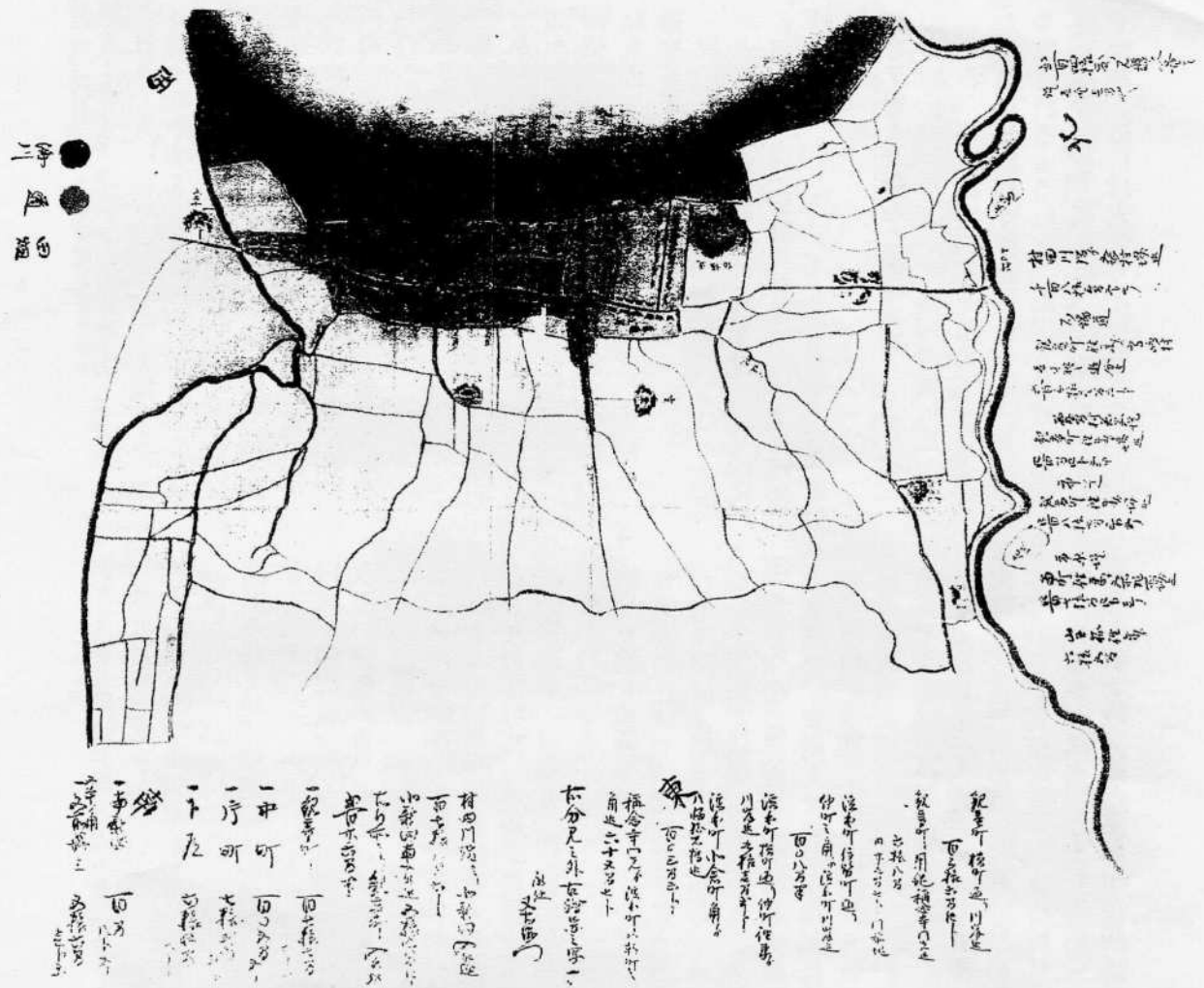
### 第82番II延命寺

真言宗の寺で元千光院末という。室町中期明応年間創建、元禄8年再建という。

### 第83番II辰巳団地と開発記念碑

江戸時代大厩村の山林で、地名は辰巳の方位にあることから。昭和34年から臨海部への進出企業社員住宅として造成、現在は大型店舗が立ち並び商業街兼住宅地になっている。中央公園はお花見の名所で、団地開発の由来碑、三山児童公園に旧大厩村の出羽三山供養塔があり、地域文化の中心地としての辰巳公民館と市の辰巳支所が置かれている。

## 市原地区



江戸後期「八幡村絵図」(飯香岡八幡宮文書)

**第97番 古甲遺跡**

古甲は古国府の転化が考えられる。発掘調査で平安時代のほったて柱建造物を検出、国庁か郡衙関係施設と考えられる。

**第98番 郡本八幡宮**

社伝は8世紀天平宝字創建とする。郡本も国府候補地の一つで、境内に巨大礎石が散在、国府関連または郡衙跡と推定されている。社殿は江戸後期建造の権現造りで大絵馬や三山参拝塚などがある。

**第99番 市原市埋蔵文化財センターといちばら歴史のミュージアム(能満)**

埋蔵文化財センターは市の遺跡、遺物の調査研究、保存管理、公開活用を目的に平成2年に設置された。また、敷地内に令和4年開館をめざして「歴史ミュージアム」建設が進んでいる。

**第100番 稲荷台1号古墳記念公園\*(山田橋)**

「王賜銘鉄剣」が発見された5世紀中後期円墳を記念公園として保存。鉄剣は国造と大和王朝との結びつきを示している。  
(\*印 現地に説明板があります)

**八幡史学館チームメンバー**

堆美登里、佐倉東雄、柴田正子、多村勝彦、鷺津寛子、山岸弘明(代表)  
協力 八幡公民館、市原の古文書研究会、飯香岡八幡宮 (令和2年1月版)

**第84番 まぼろしの上総国府(市原)**

これまでまぼろしとされた「上総国府」が市原台地にほぼ特定されつつある。最大の根拠は市原市市原の地名、「和名類聚抄」は国府を市原郡とする。周辺に国府に関連する寺社名や地名が多く古代瓦や巨大柱穴が出土している。かつて台地一帯に国府が広がった「歴史ロマンの里」が解明される日も近いのではないか。

**第85番 古代官道**

往昔上総は東海道に所属、古代官道は国府から国府を結ぶ幹線で、市原では山田橋から郡本、市原台地の辻から五所間が確認されている。海岸道とともに伝路、駅路を形成したとみられている。

**第86番 光善寺薬師堂**

7世紀末の光善寺廃寺跡で国府(こう)前寺とも読める。現在の光善寺は室町時代の中興で本尊「薬師三尊像」と厨子が室町時代の作、石とつらうも応永期の古式を伝えている。

**第87番 麦飯石と柳楯神事(光善寺)**

飯香岡社創建神話で八幡神が現れたとする瑞石。麦飯に柳の箸を添えて差し上げた故事から柳楯が飯香岡社祭礼で神前に奉尊されるようになった。600年の伝統を引き継ぎ、柳楯はいまも市原の司家で調整、巡行は光善寺から始まる。

**第88番 阿須波神社と万葉碑\***

阿須波は旅立ちの神という。「万葉集」防人の歌「庭中の阿須波の神に小柴さし」の碑が立っている。

**第89番 条里制遺跡と柳楯巡行の道(市原、五所)**

市原、菊間台地下から海岸部にかけての水田の発掘調査で条里制遺跡が出土した。「条里制」は土地を碁盤目に区画した古代の地割り制度で、縄文時代から中近世におよぶ広い年代の農耕機具や陶磁器などが発掘された。遺跡を縦断する大道は古代官道で、柳楯の巡行は現在もこの道が使われている。

**第90番 市原城跡\***

戦国期の丘城で房総往還を見下ろす舌状台地先端に立地、上総・下総境目の城として千葉氏と武田、正木、里見氏の争奪地でもあった。後期は後北条、小弓城原胤栄の支城で、天正18年の小田原征伐後廃城。堀切、空堀、土塁、櫓台、井戸などの遺構がある。

**第91番 能満城跡\***

市原城と並立する対の城。主郭部は中央東域で、土塁、空堀、虎口などが旧態を残している。台地周辺から鎌倉時代や室町時代の五輪塔などが出土している。

**第92番 能満堰と灌漑用水路**

**第93番 市原八幡宮**

市原中学校と遺跡センター間の窪地にあった江戸時代からの灌漑用堰と堰水を源川とした能満川。市原台地を迂回して市原や五所、八幡の一部などの水田を潤して東京湾に注いだ。

**第94番 積蔵院(能満)(市指定文化財 積蔵院文書)**

平安前期・大同元年弘法大師創建と伝わる古刹で鎌倉期中興という。新義真言宗。昭和36年、享保建造の本堂を焼失したが、旧鐘楼と大師堂は現存。石造物に旗本朝岡氏の墓、巡拝塔など。天明3年当寺が中心となった「市原郡八十八か所御詠歌札所」で第一番札所となった。また多量の中世文書を保管している。

**第95番 府中吉日神社(県指定文化財)**

白鳳年間、また天武天皇2年創建とする。府中は国府を意味し、能満も候補地の一つだが古社名が山王権現由来が明確でない。本殿は室町時代の和様建築で県指定、猿のこま犬が珍しい。

**第96番 大多喜街道(国道297)**

大多喜への往還で「鶴舞往還」ともいった。一部は古代官道と重複している。